

総務政策委員協議会記録

開会年月日	平成 30 年 8 月 29 日
開会時刻	午前 10 時 09 分
閉会時刻	午前 10 時 38 分
出席委員名	◎岡田善行 ○上村和生 井村貴志 鈴木豊司
	吉井詩子 吉岡勝裕 黒木騎代春 世古口新吾
	西山則夫 議長
欠席委員名	—
署名者	—
担当書記	山口徹
協議案件	・第 1 次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの現時点における総括について
	・所管事業の平成 30 年度進捗状況及び予算の執行状況等の調査の実施について
説明者	情報戦略局長、情報戦略局参事、 総務部長、総務部参事、職員課副参事
	その他関係参与

協議の経過

岡田委員長が開会を宣言し、会議成立宣言の後、直ちに会議に入り「第1次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの現時点における総括について」及び「所管事業の平成30年度進捗状況及び予算の執行状況等の調査の実施について」の説明を受け協議会を閉会した。

なお、その概要は次のとおり。

開会 午前10時09分

◎岡田善行委員長

ただいまから総務政策委員協議会を開会いたします。

本日の出席者は全員でありますので、会議は成立しております。

本日御協議願います案件は「第1次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの現時点における総括について」及び「所管事業の平成30年度進捗状況及び予算の執行状況等の調査の実施について」の2件でございます。

議事の進め方については委員長に御一任願いたいと思いますが御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎岡田善行委員長

御異議なしと認めます。そのように取り計らいをさせていただきます。

【第1次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの現時点における総括について】

◎岡田善行委員長

それでは「第1次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの現時点における総括について」を御協議願います。

当局からの説明を願います。

情報戦略局長。

●浦井情報戦略局長

本日は御多用のところ、総務政策委員会に引き続き協議会をお開きいただき、誠にありがとうございます。本日、御協議をお願いする案件は委員長から御案内がありましたとおり、「第1次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの現時点における総括について」でございます。

詳細につきましては担当から御説明申し上げますので、よろしく願いいたします。

◎岡田善行委員長

情報戦略局参事。

●辻情報戦略局参事

それでは、御説明を申し上げる前にですね、申しわけございません。資料に誤りがございましたので訂正をお願いしたいと存じます。申しわけございません。資料1-2の、

まず10ページをお開きいただけますでしょうか。

10ページは「イベント等の誘致・開催」という取り組み事項になっておりますが、この表の中の下の方に実施スケジュールという欄がございます。その実施スケジュールの1番右端に進捗状況という欄がございますが、この中に実施終了という文言がございますが、この終了の修は修めるではなく、終わるの終でございますので、申しわけございませんが、終わるのほうの終了ということで訂正をお願いしたいと存じます。なお、同様にこれは13ページの「伊勢志摩地域への旅客誘致」にもございますし、それから、15ページの「伊勢志摩国立公園の自然保護、PR、地域振興」にもございますし、26ページ「図書館サービスの新たなしくみ構築」もございますし、あと最後27ページの「宮川流域情報の集約及び提供等」こちらのほうに、それから抜けました、申しわけございません。9ページの「企業立地の推進」欄もございましたので、すみませんでした。間違いございまして申しわけございませんでした。お詫びして訂正申し上げます。

それでは、「第1次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの現時点における総括について」御説明申し上げます。資料1-1を御覧ください。

これは、「1 取組事項の検証」に記載のとおり、本市を中心市とした生活圏や経済圏を共にする鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町、明和町の3市5町で形成する「伊勢志摩定住自立圏」について、圏域が目指す将来像等の実現に必要な具体的な取り組みを示した「伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン」の計画期間が今年度で終了となりますが、引き続き圏域の課題に対応していくために「第2次共生ビジョン」を策定するに当たり、これまでの取り組みを検証し、4月末時点における総括を行いましたので、その結果を御報告するものでございます。

伊勢志摩定住自立圏構想に係る経緯につきましては、「2 これまでの経緯」に記載のとおりでございます。

取り組み状況を御説明いたしますので、「3 各取組の目標値達成状況等について」をごらんください。

共生ビジョンでは、「生活機能の強化」、「結びつきやネットワークの強化」、「圏域マネジメント能力の強化」の3つの視点に立ち、7つの政策分野、15の施策において各市町と連携を図り、30の取り組み事項を進めてまいりました。

2ページをごらんください。

各取り組みには成果指標及び目標値を設定しており、現時点の状況から、目標達成状況を達成済み、達成見込み、一部達成見込み、未達成の見込みの4区分から判断いたしております。

上段の表のとおり、30件の取り組み事項中、76.6%に当たる23件が目標達成済み、または達成見込み、2件が一部達成見込み、5件が未達成の見込みとなっております。

具体的な取り組み事項については、2ページから3ページにかけての表に記載のとおりでございますが、このうち、総務政策委員協議会関係分は、(24)圏域内外への地域情報発信、(25)出会い・結婚に関する情報提供等、(27)宮川流域情報の集約及び提供等、(28)職員研修の合同開催の4つでございます。

各取り組み事項の目標値達成状況につきましては、職員研修の合同開催が未達成の見込みで、その他の項目は達成見込みとなっております。

取り組み事項の詳細につきましては、資料1-2に記載いたしておりますが、総務政策委員協議会関係分につきましては、青い色で網掛けした部分でございます。恐れ入りますが、後ほど御高覧賜りますようお願い申し上げます。

なお、全ての取り組み事項について、次期共生ビジョンへ継続することとしております。

それでは、取り組みの主な成果について、御説明いたしますので、4ページをごらんください。

総務政策委員協議会関係分といたしまして、イ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野の（ウ）地域内外の住民との交流では、圏域各市町のイベント等について、連携して積極的な情報発信を行うとともに、平成32年度の交付開始を目指すご当地ナンバー伊勢志摩の導入検討・調整等を連携して進めることができました。

また、平成28年度から出会い・結婚への支援を連携して取り組むことで、出会いの場の拡大を図るなど、加速化する人口減少・少子化に対する広域的な取り組みの必要性の高まりに対応しております。

（エ）その他といたしまして、魅力ある宮川流域環境を保全等していくため、情報の集約、その魅力の発信、清流宮川を守る住民活動への支援、交流促進による水環境保全に向けた流域意識の向上等に連携して取り組みました。

5ページをごらんください。

また、ウ 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野では、（ア）人材育成として、日常業務の円滑な実施に加えて、制度改正等に対応するため、職員の能力向上について、各市町の実情に応じた人材育成に係る取り組みを連携して進め、共通する課題への対応やノウハウを共有することができたものでございます。

次に、（2）の圏域人口についてでございますが、共生ビジョンを策定いたしました平成26年から平成29年に係る状況につきましては、表に記載のとおり、毎年約1%減少しており厳しい状況が続いております。

そのうち、社会増減、転入人口と転出人口の差につきましては、転出超過が続いており、平成28年に一度減り幅が減少したものの、平成29年には以前の水準に戻り、定住自立圏構想の目標である地方圏への人の流れの創出、人口流出防止を推進している状況には至っていないところでございます。

こうした状況を踏まえた上での今後の方向性につきまして、御説明申し上げますので、恐れ入りますが6ページをごらん願います。

共生ビジョンの各取り組みにつきましては、概ね目標値を達成する見込みでございます。しかしながら、圏域人口の減少は進んでおり、圏域を取り巻く課題も継続していることから、平成31年度以降につきましても、第2次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンを策定し、連携市町と取り組みの推進を一層図ってまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。御協議のほど、よろしくようお願い申し上げます。

◎岡田善行委員長

ただいまの説明に対しまして、御発言はございませんか。

鈴木委員。

○鈴木豊司委員

これ共生ビジョン策定から5年目を迎えましてですね、第2次の共生ビジョンに向けて、今回、検証とか総括を行っていただいたということなんです。この計画の取り組みを進めることによって、内閣府あるいは総務省などの省庁からですね、支援があるということが聞かされてもらっておるんですけど。支援の状況とといいますか。仕組みとといいますか、金額的なことも含めて、できましたら報告いただきたいと思うんですが。

◎岡田善行委員長

情報戦略局参事。

●辻情報戦略局参事

ただいま御質問にありました、財源措置とといいますか地方財政措置のことですが、総務省のほうでは、数式とといいますか、中心市とそれから連携市町とは異なっております。連携市町におきましては、1,500万円というのが決まっておりますが、中心市におきましては、8,500万円を基準に計数等いろいろ掛けますと、当市の場合ですと、平成29年昨年での場合、計算上は1億120万程度が、これ上限額ということで、措置をしていただくということでございます。実際はですね、若干、事業費は、総額を入れますと1億3,000万程度ということになっておりまして、できましたらこの幅を小さくしながらうまく活用していきたいなと思っておりますが、少なくとも、上限額一杯いっぱいでの事業をやりたいなというふうなことは思っております。以上でございます。

◎岡田善行委員長

鈴木委員。

○鈴木豊司委員

ありがとうございます。それについては、第2次の共生ビジョンの取り組みについても同じような支援があるわけですか。

◎岡田善行委員長

情報戦略局参事。

●辻情報戦略局参事

はい、今いろいろなところにそういう情報を聞いて確認しておりますが、現時点で詳しい詳細までわかっておりませんが、財政措置は受けられるということで、伺っておるところでございます。

◎岡田善行委員長

鈴木委員。

○鈴木豊司委員

はい、ありがとうございます。定住自立圏を形成する他の7市町については、1,500万円程度の財政的な支援が受けられるということなのですが、それ一律に1,500万円受け取っておるといふ実績でいいんですかね、そういう理解で。

◎岡田善行委員長

情報戦略局参事。

●辻情報戦略局参事

はい、御案内のとおり、この取り組みは伊勢とそれぞれのほかの市町との1対1の関係でございますので、内容によっては、満額とれるような事業を実施していただいておりますところもあろうかと思えますし、内容によって、それぞれの事業規模が異なっておりますので、詳しくは情報をですね、詳細にはつかんでいないところがございますが、我々が聞き及んでおるところによると、満額にも至っていない自治体もあるようには伺っております。

◎岡田善行委員長

鈴木委員。

○鈴木豊司委員

その辺の実態というのは、一応つかんでいただく必要があるのかな、よそのことなんやけど、中心市として、それなんて言うのかな、つかんでおく必要があるのかなというふうに思うんです。それとですね、今回、検証を総括してもらっておるんですけど、他の市町においても同じような形で検証なり総括をしておるのかどうなのか、その辺いかがですか。

◎岡田善行委員長

情報戦略局参事。

●辻情報戦略局参事

はい、こうした流れで私ども中心市として、議会のほうに報告するというので、基本的に私たちのこういう考え方っていうのも各市町にお示しした上でですね、これに対して、それぞれの自治体での感想というか、そういうことも、紹介をして本日こういうふうな形で出させていただいておりますので、それぞれの自治体においてどういう形で、総括をしていただいとるかは詳細に把握しておりませんが、こういうふうな伊勢市のやり方で対応していくっていうことはお伝えをしておりますので、それなりになさってみえるんじゃないかというふうに思っております。

◎岡田善行委員長

鈴木委員。

○鈴木豊司委員

それともう1点ですが、今回の議決事件の関係でちょっとそこを調査する機会がありまして調べてみましたら、伊勢市と同様にですね、定住圏自立協定の形成に関する条例を制定しておるところは、伊勢市と志摩市、それから、町においては議決事件の拡大ということで、地方自治法の96条2項の関連で条例を制定しているところはほとんどなんです。ただその中で、鳥羽市と明和町は、ちょっとよう調べんだんですけど、その辺もきちっと条例をつくって対応してもらっておるのかどうなんか、今わかったら教えてもらいたいと思いますし、わからんだらまた後ほど調査してもらって、教えていただけたらいいと思うんですが。

◎岡田善行委員長

情報戦略局参事。

●辻情報戦略局参事

はい、申しわけございません。現時点ではそこまで詳細に把握しておりませんので、また後ほど対応させていただければと思います。

◎岡田善行委員長

鈴木委員。

○鈴木豊司委員

それと、今回、取り組みの成果につきまして報告をもらっております。資料1-1の5ページですが「人材育成」でございます。ここでは職員の能力向上について、それぞれの市町の実情に応じた人材育成に係る取り組みを連携して進めると、これ共通する課題への対応や、ノウハウを共有することができましたということで書いてもらっております。

これに関しまして、この具体的な取り組み事項の推進状況を見てみますとですね。教職員の関係は、参加者が半数程度になるんですが、開催回数は表示し、目標値に近くて、それなりに努力をさせていただいておるのかなというふうに思うんですが、職員研修、こちらにおきましては、職員研修の合同開催にありましてはですね、開催回数が10回、参加者数が70人の目標値を設定しておるんですが、実際は29年度は5回の11人というような状況に終わっております。そういう実績の中で、この成果に書いてもらっておりますように、共通する課題への対応、ノウハウが共有できたという成果が上げてもらっておるんですけど、その成果に記載のとおりの評価でいいのかどうなんか。ちょっと疑問なんでその辺の見解いかがですか。

◎岡田善行委員長

職員課副参事。

●上田職員課副参事

研修の内容なんですけどもこの研修でですね、各市町でですね、自分の業務以外でも、

公務員としての知識として必要なことということで、障がい者の差別解消とか、里親制度とか、男女共同参画という、その時々でタイムリーな研修をですね、実施させていただきまして「知識の共有」それはできたと考えております。以上でございます。

◎岡田善行委員長
鈴木委員。

○鈴木豊司委員

いや私が言いますのは目標値に対して、実績ですね、大変少なくなっておりますんで、そういう評価でよろしいんですかなということなんです。

◎岡田善行委員長
職員課副参事。

●上田職員課副参事

参加していただく人数が少なかった点、この辺は大変、反省するべきところだと考えています。市町の職員数とか勤務状況で、なかなか複数の職員に参加していただくことができなかつた部分、その部分もあったと思い、我々もちょっと反省する次第であります。

今後ですね、またさらにですね、市町と連携を深めて魅力ある研修、それを30年度以降もしていきたいと考えてます。以上でございます。

◎岡田善行委員長
鈴木委員。

○鈴木豊司委員

細かい話になるんですけど、5回で11人ということなんです、平均すると2人程度なんですよね、どんな研修を合同研修されておるんですか。

◎岡田善行委員長
総務部参事。

●西山総務部参事

この圏域の研修につきまして、基本的には企画総務部会というふうな部会がございまして、そこで集まって各市町からいろんな研修の内容についてちょっと議論させていただきます。地方公務員としてですね、その時々的重要な課題であったりとか世の中の背景であったりとか、時事問題、そういったことをやっていこうというふうなところが前提でございます。29年度におきましてはですね、例えばなんですけれども、働き方改革の中でいかに効率よく事務をしていくか、これはオフィスの片づけファイリングセミナーであったりとか、あとはコミュニケーション能力というのがやっぱりどこも欠けているという

ことでコミュニケーション能力であったりとか、障がい福祉の関係で、手話の能力は公務員には必要だよねっていうふうなことで、手話講座、これは大変、他の市町の方からも、好評を得たものでございます。それからですね、あと男女共同参画であったりとか、オープンデータの活用、これは政策にいかんにかかしていかんか、そういったですね、直接の業務以外、さらにもう一つ大きな範囲の中で研修を開催させていただいております。ちなみにですけれども、開催回数につきましては、これ例えば29年度、5回とありますけれども、他の市町の職員が参加をいただいた研修の回数をちょっと記載させてもらっております。研修自体は、案内も含めて、ほかにも、いろいろ案内をさせていただいておりますが、あくまで参加をいただいた回数をですね、ここに数字を入れよということで記載をさせていただきますので、このような数字にはちょっとなってしまうというふうな状況でございます。以上でございます。

◎岡田善行委員長

鈴木委員。

○鈴木豊司委員

ありがとうございます。呼びかけはさせていただいておりますので理解をさせていただきたいと思っております。最後にですね、この資料に未達成の理由としてですね、庁舎改修によって研修規模を縮小せざるを得なかった、ということで記載があるんですが、これ単なる言いわけに感じるんです。未達成の要因というのは、庁舎改修だけなんかどうなんか、これ他局の実績から見ましても、現状と課題に掲げます、地域を牽引する人材育成が必要ということなんですが、本当にそのような考えにおけるのか、最後にお聞かせください。

◎岡田善行委員長

総務部参事。

●西山総務部参事

申しわけございません。確かに言い訳というふうなところになってしまいます。実際に開催をしなかったという部分でちょっとここにはこういうふうな記載をさせていただきました。あくまでもですね、いろいろな知識であったりとかそういった職員の能力に対する、能力の向上についてですね、今後も何といたしますか、実際にいろんな形で研修の場を設けたりとかそういうことができるかと思っておりますので、2次に向けてですね、これも先ほど申し上げた企画総務部会のほうでちょっといろいろ議論をして今後進めてまいりたいというふうに考えております。以上です。

◎岡田善行委員長

よろしいですか。他にございませんか。

吉井委員。

○吉井詩子委員

私も、この人材育成のことでお聞きしたかったんですが、鈴木委員のほうからもう大体言っていただきましたので、補足する形でお聞きしたいと思うのですが、この大変、数字的に低いということなんですが、これは、鈴木委員は言い訳とおっしゃったんですが、庁舎改修に伴い研修規模を縮小せざるを得なかったということなんですが、この研修自体は必ずしも中心市でやらなければねばならないものなんですか。

◎岡田善行委員長

職員課副参事。

●上田職員課副参事

必ずしも中心市街地ということでございませぬので、あくまでも合同研修ということですので、その点は、必ずしもということではございませぬ。以上です。

◎岡田善行委員長

吉井委員。

○吉井詩子委員

それでは、他のところ例えば研修で、あまり来ていただいていないなっていうところに出向いていくとか、工夫の余地が第2次するときではあるのかなと思いますので、よろしく願いいたします。それでちょっと細かいことを聞くようですが、出会い結婚への支援についてなんですが、この29年度の登録数が180となっていますが、この180の各市町別の内訳を教えてくださいませぬでしょうか。

◎岡田善行委員長

市民交流課副参事。

●丸山市民交流課副参事

御質問いただきました登録数ですけれども、伊勢市が157、鳥羽市が5、志摩市が6、玉城町が4、度会町が5、大紀町はゼロ、南伊勢町が1、明和町が2、合計180でございませぬ。

◎岡田善行委員長

吉井委員。

○吉井詩子委員

ありがとうございます。これもやはり、もっと他の市町をふやすようにまたしていただきたいと思います。それで、この出会い結婚に関して、これは定住自立圏で取り組むということですのでごく効果があることだと思ひます。大きな範囲ですべきだと思ひます。

そこで、やはりそのベースになる考え方っていうのがやはり男女共同参画になってくると思っていますので、それを各市町の職員さんが共有していただくために、この人材育成の必要性があると思います。そこら辺で、男女共同参画の研修のときに、何人来ていただいたかわかりませんが、やはりこれに関して、たくさん来ていただけるような、また工夫もしていただきたいと思っております。これ一つの例ですが、やはりこの人材育成ということが定住自立圏のこの考えをみんなでも共有していくということのベースになっていくということを実感をしていただきたいと思うんですがその辺の考えについていかがでしょうか。

◎岡田善行委員長
職員課副参事。

●上田職員課副参事

委員のおっしゃることごもっともだと思います。皆さんの各市町の職員の意識、それを一つにすること、それが必要だと考えております。今後ですね、各市町の連携、これを過去より深めさせていただいて、各市町の課題ニーズ、こちらをですね、的確に捉えて、魅力ある研修、それに取り組んでいきたいと考えております。以上でございます。

◎岡田善行委員長
吉井委員。

○吉井詩子委員

先ほど来、御答弁でおっしゃって見えた知識とか、そういう能力を上げていくということは別に自分この役所だけでもできることですので、それをあえて多くの市町で連携してやるということは、やはりそれなりの意味があると思いますので、そこら辺のことを考えていただいて、先ほどお聞きした他市の実態もつかんでいないとか、ちょっとその辺も、他市でしっかりと人材育成の研修に参加していないということも、これは多分つかんでいらっやらないのではないのかなと思いますので、そこら辺、他市がどう検証しているのかっていうことの実態をやはりつかんでいただいて、第2次のほうはしていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。以上です。

◎岡田善行委員長
他にございませんか。

御発言もないようですので、本件についてはこの程度で終わります。

【所管事業の平成30年度進捗状況及び予算の執行状況等の調査の実施について】

◎岡田善行委員長

次に「所管事業の平成30年度進捗状況及び予算の執行状況等の調査の実施について」を御協議願います。

本件につきましては、主要な事業について、常任委員会別に執行機関から事業の進捗

状況や予算の執行状況等について、例年報告を行っております。

昨年度は改選年度であったため8月23日に実施し、5事業について報告をいただきました。過去の選定事業については、資料2-1、年度別選定事業表のとおりです。

今年度も5事業程度を選定し、12月定例会までに実施するということにしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎岡田善行委員長

御異議なしと認めます。そのように決定いたしました。

今後の進め方でございますが、委員の皆様から報告の対象としたい事業がありましたら9月5日、水曜日までに正副委員長、また事務局の担当書記へ御連絡を願いたいと思います。参考として、資料2-2、平成30年度歳出予算款別説明書を配付させていただいております。この資料は、当初予算資料の総務政策委員会所管事業一覧のうち、正副委員長で相談し、あらかじめ15事業を選定したものでございます。委員から希望された事業等正副委員長において5事業程度を選定し、9月定例会中の常任委員会で決定したいと思います。あわせて閉会中の継続調査の申し出も決定したいと思います。

この件について、委員の皆様から何か御発言はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎岡田善行委員長

御発言もないようですので、本件については5事業程度を調査するということとし、当局から報告をいただく事業の選定については、正副委員長に御一任願いたいと思いますが御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎岡田善行委員長

御異議なしと認めます。そのように決定いたしました。

以上で本日御協議願います案件は終わりましたので、これをもちまして総務政策委員協議会を閉会いたします。ありがとうございました。

閉会 午前10時38分